

Ⅱ 家庭生活

1 家庭における役割

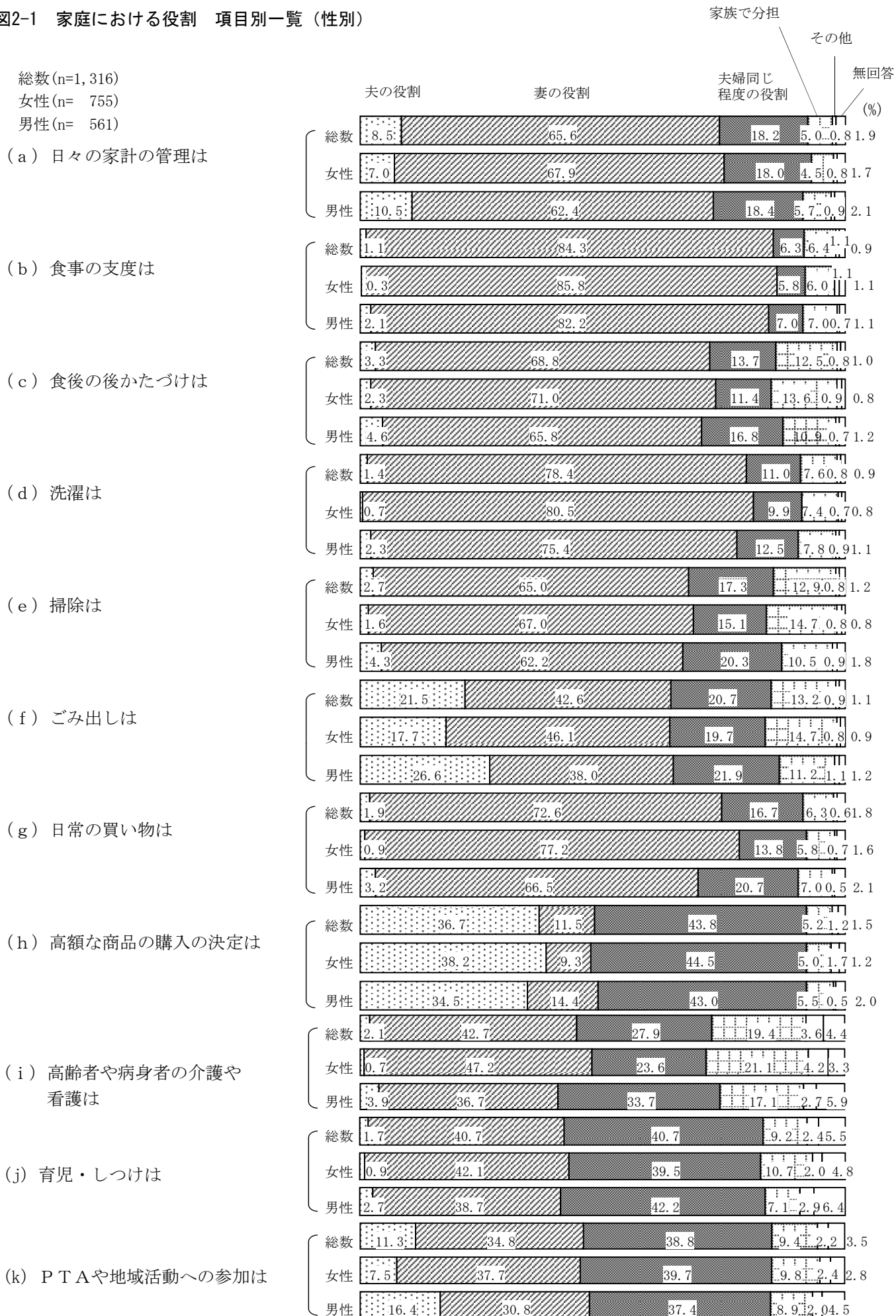
問2 次にあげる家庭の仕事は誰の役割だと思いますか。あなたのお考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。配偶者のいない方もお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

家庭の仕事は誰の役割だと思うかについては、“(b) 食事の支度”(女性85.8%、男性82.2%) “(d) 洗濯”(女性80.5%、男性75.4%) “(g) 日常の買い物”(女性77.2%、男性66.5%)で『妻の役割』(調査票選択肢の「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合計したもの。以下同様)と回答した人が多くなっている。

「夫婦同じ程度の役割」の割合が高いのは、“(h) 高額な商品の購入の決定”(女性44.5%、男性43.0%) “(j) 育児・しつけ”(女性39.5%、男性42.2%) “(k) PTAや地域活動への参加”(女性39.7%、男性37.4%)で、男女ともに4割前後になっている。

※『夫の役割』は調査票選択肢の「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合計したもの。
『妻の役割』は調査票選択肢の「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合計したもの。
以降の頁も同様。

図2-1 家庭における役割 項目別一覧（性別）



家庭における役割

(a) 日々の家計の管理は

【性別】

『夫の役割』は男性の方が4ポイント多く、『妻の役割』は女性の方が6ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、いずれの地域も『妻の役割』は7割弱、『夫の役割』（調査票選択肢の「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合計したもの。以下同様）は1割未満となっている。

男性では、『妻の役割』が能登中部（56.1%）で少なくなっている。

【年代別】

女性では、『夫の役割』は60歳以上（10.8%）が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は60歳以上（15.3%）が最も少ない。

男性の場合は、『夫の役割』とする人が年齢が上がるほど多くなっている。

【ライフステージ別】

女性の場合、『夫の役割』は高齢期（10.8%）で特に多くなっている。

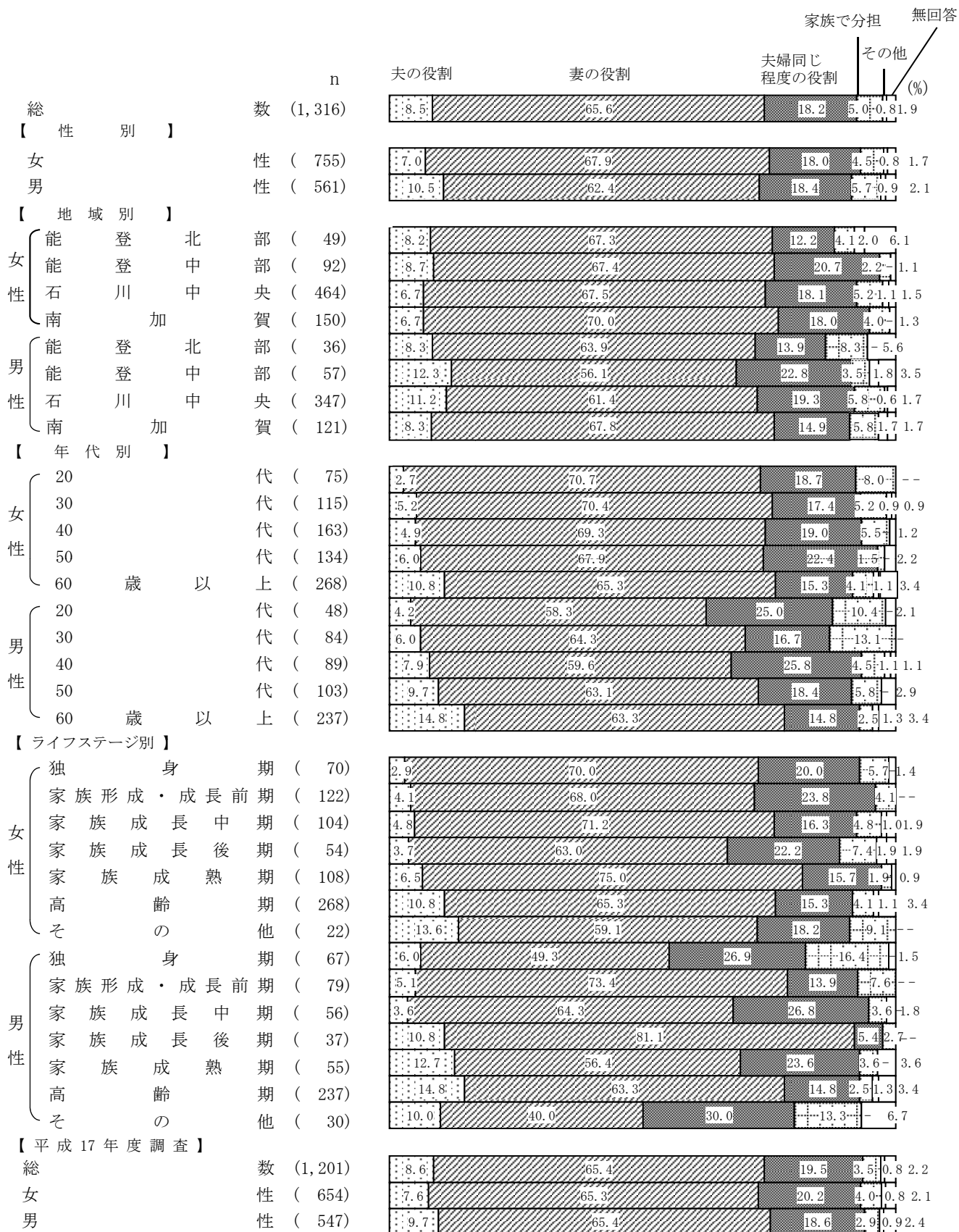
男性では、『夫の役割』が家族成長後期（10.8%）、家族成熟期（12.7%）、高齢期（14.8%）で多くなっている。家族成長後期では『妻の役割』が81.0%を占めている。

【平成17年度調査との比較】

男女ともに大きな変化は見られない。

図2-2 家庭における役割 (a) 日々の家計の管理は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



家庭における役割

(b) 食事の支度は

【性別】

『妻の役割』は女性の方が4ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』が全ての地域で8割を超えているが、「夫婦同じ程度の役割」が南加賀(8.7%)とやや多くなっている。

男性でも、『妻の役割』がどの地域でも8割前後となっている。「夫婦同じ程度の役割」は能登北部(11.1%)でやや多くなっている。

【年代別】

女性では、『夫の役割』が全ての年代で1%未満である。

男性では、20代で『妻の役割』(66.7%)が少なく、「家族で分担」(16.7%)が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性の場合、『妻の役割』は家族成熟期(91.7%)で最も多く、9割を超えている。

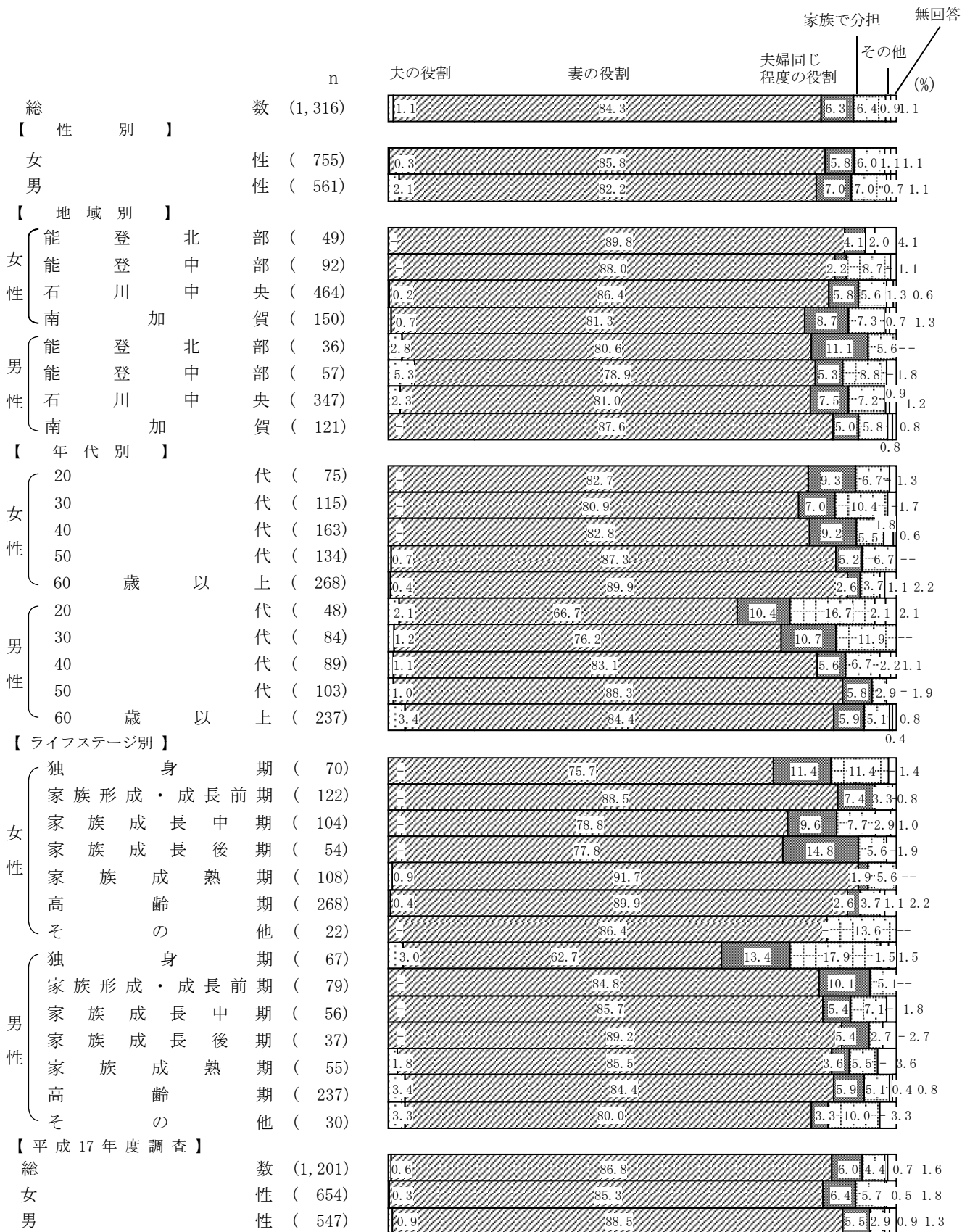
男性では、『妻の役割』は独身期(62.7%)で最も少なく、その他のライフステージでは各8割を超えている。独身期は「夫婦同じ程度の役割」(13.4%)が最も多くなっている。

【平成17年度調査との比較】

女性では変化は見られないが、男性で『妻の役割』が6ポイント減少している。

図2-3 家庭における役割 (b) 食事の支度は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



家庭における役割

(c) 食後の後かたづけは

【性別】

『妻の役割』は女性の方が5ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は能登中部（82.6%）、能登北部（79.6%）で多くなっている。

男性では、『夫婦同じ程度の役割』が南加賀（19.8%）、石川中央（17.6%）が多い。

【年代別】

女性では、20代で『妻の役割』（52.0%）が他の年代と比べて少なく、「家族で分担」（21.3%）が最も多い。

男性の場合は、『妻の役割』は20代（37.5%）、30代（52.4%）で少なく、一方「家族で分担」は20代（22.9%）、30代（26.2%）で多くなっている。

【ライフステージ別】

女性の場合、『妻の役割』は独身期（41.4%）で最も少なく、高齢期（79.9%）で最も多い。

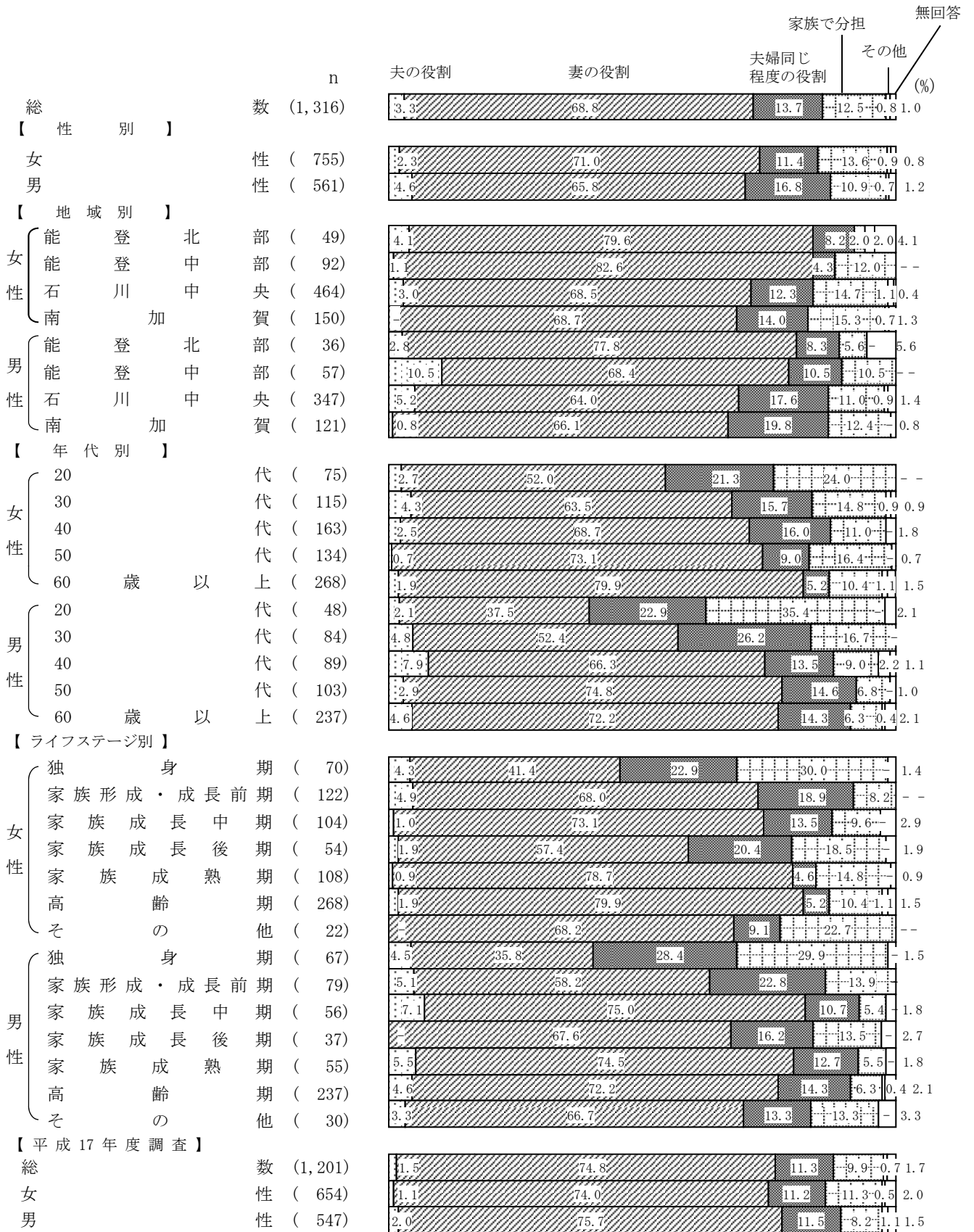
男性では、「夫婦同じ程度の役割」は独身期（28.4%）と家族形成・成長前期（22.8%）で多く2割を超えている。

【平成17年度調査との比較】

『妻の役割』が男性で10ポイント減少している。

図2-4 家庭における役割 (c) 食後の後かたづけは

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



家庭における役割

(d) 洗濯は

【性別】

『妻の役割』は女性の方が5ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』はいずれの地域でも8割前後となっており、能登北部（87.8%）で最も多くなっている。

男性では、「家族で分担」が能登北部（13.9%）で多くなっている。

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60歳以上（86.2%）が特に多くなっている。

男性では、『妻の役割』は50代（85.4%）、60歳以上（81.9%）で多くなっている。

【ライフステージ別】

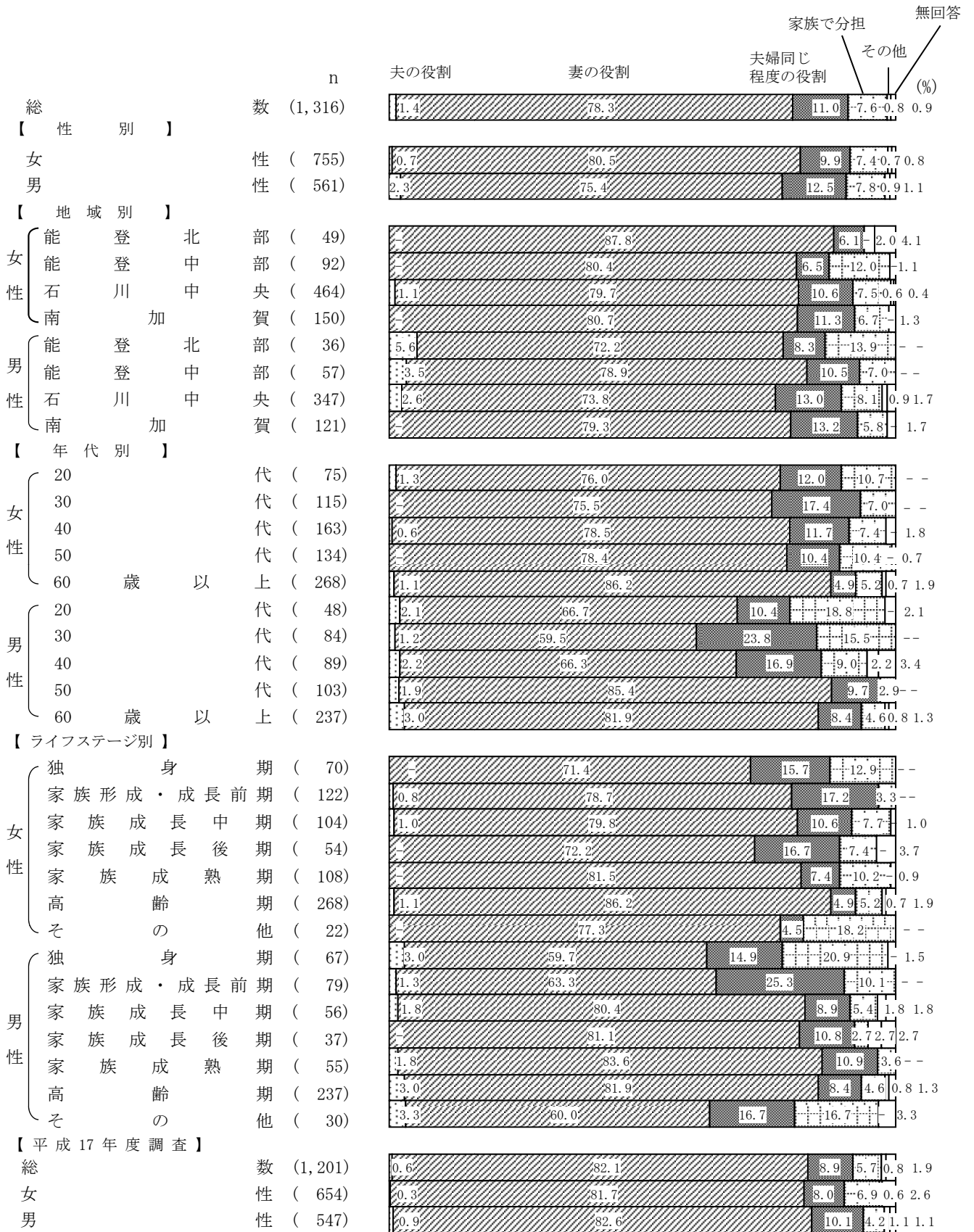
女性の場合、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（17.2%）、家族成長後期（16.7%）で最も多く、高齢期（4.9%）で最も少ない。

男性の場合は、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（25.3%）で最も多く2割を超えている。

【平成17年度調査との比較】

女性には変化は見られないが、男性では『妻の役割』が7ポイント減少している。

図2-5 家庭における役割 (d) 洗濯は (性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



家庭における役割

(e) 掃除は

【性別】

「夫婦同じ程度の役割」は男性の方が5ポイント多く、『妻の役割』は女性の方が5ポイント多くなっている。

【地域別】

女性の場合、能登北部のみ「夫婦同じ程度の役割」（6.1%）が1割未満となっている一方、『妻の役割』（75.5%）が7割を超えている。

男性では、「夫婦同じ程度の役割」が南加賀（24.8%）能登中部（24.6%）で多くなっている。

【年代別】

女性では、「夫婦同じ程度の役割」は20代（24.0%）が最も多く、30代では18.3%、40代では18.4%となっているが、おおよそ年代が上がるごとに割合が下がっている。

男性の場合は、『妻の役割』は20代（47.9%）、30代（48.8%）で少なく他の年代では6割を超えている。

【ライフステージ別】

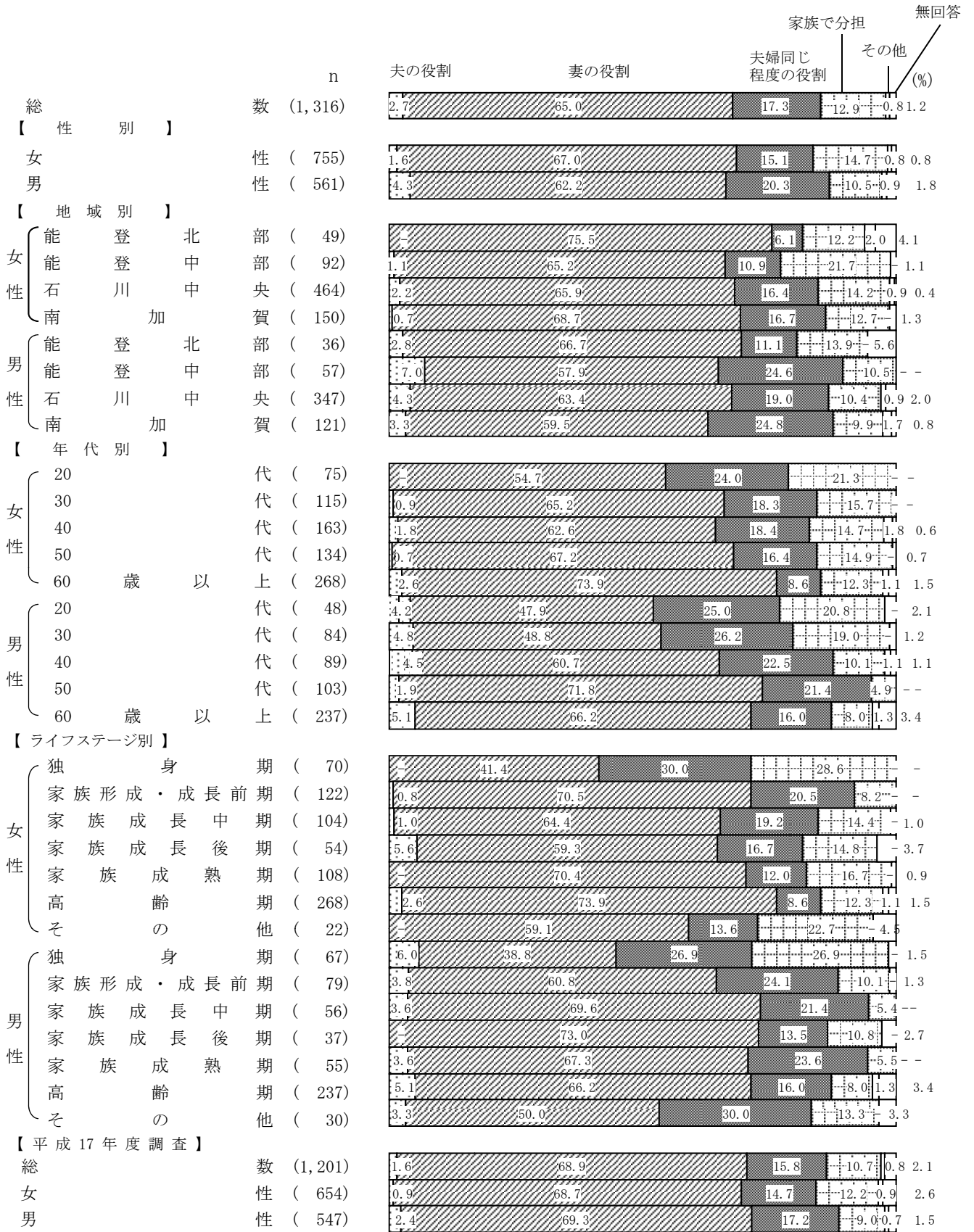
女性の場合、「夫婦同じ程度の役割」は独身期（30.0%）で最も多く、高齢期（8.6%）で最も少ない。

男性の場合、『妻の役割』は独身期（38.8%）で特に少なく、4割以下である。

【平成17年度調査との比較】

女性には変化は見られないが、男性では『妻の役割』が7ポイント減少している。

図2-6 家庭における役割 (e) 掃除は(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



家庭における役割

(f) ごみ出しは

【性別】

『夫の役割』は男性の方が9ポイント多く、『妻の役割』は女性の方が8ポイント多くなっている。

【地域別】

女性の場合、『妻の役割』は能登北部（61.2%）で特に多く、「夫婦同じ程度の役割」は南加賀（22.7%）、石川中央（20.3%）が多い。

男性では、「夫婦同じ程度の役割」が能登北部（30.6%）と最も多く、3割を超えている。『夫の役割』は能登中部（33.3%）が多い。

【年代別】

女性では、『妻の役割』が年代が上がるほど割合が高くなっている。

男性の場合は、「夫婦同じ程度の役割」は年代が下がるほど多くなっている。

【ライフステージ別】

女性の場合、『妻の役割』は高齢期（54.5%）で最も多く、独身期（25.7%）で最も少ない。

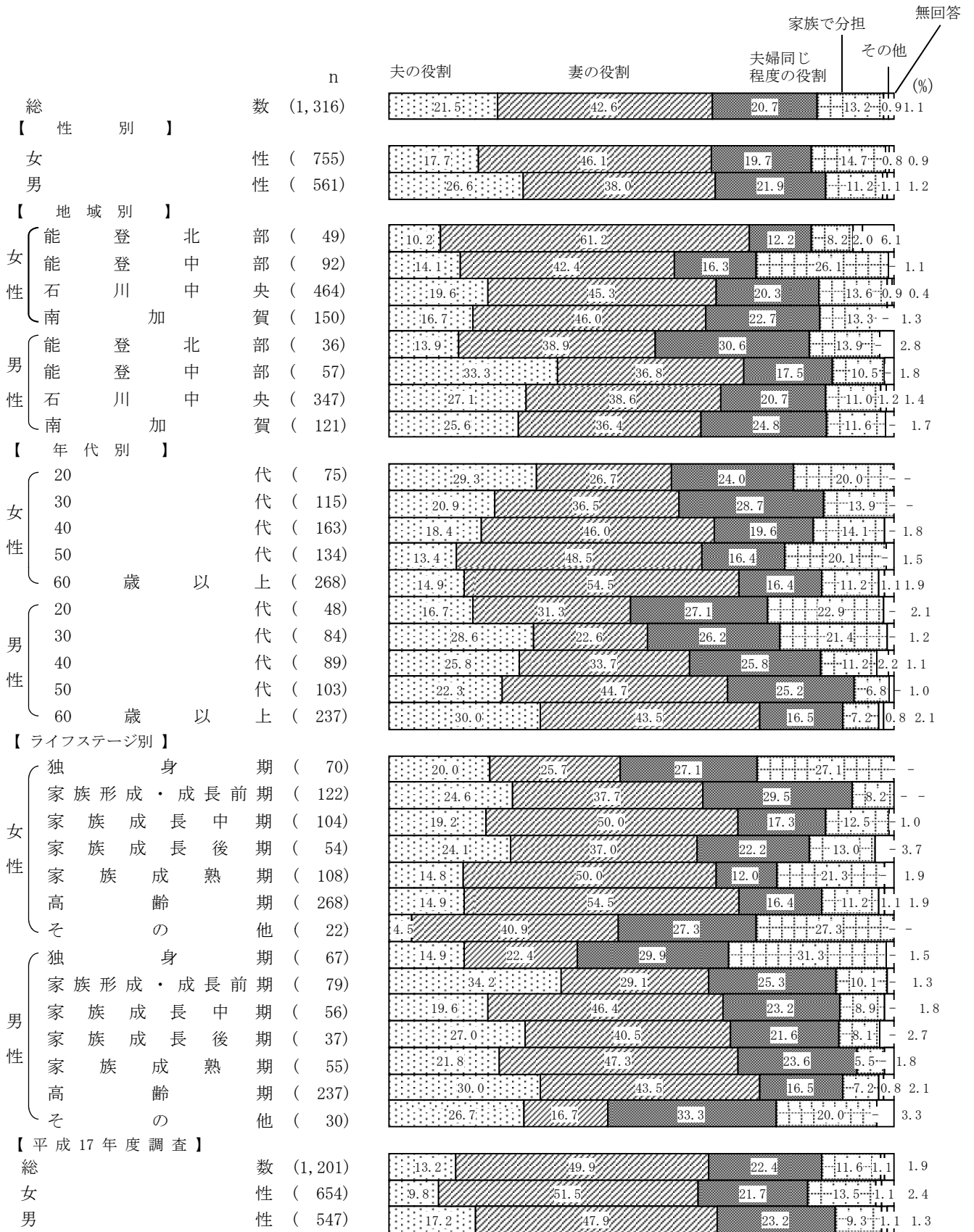
男性の場合、家族形成・成長前期で『夫の役割』（34.2%）が最も多く、独身期で『妻の役割』（29.1%）が最も少ない。

【平成17年度調査との比較】

女性では、『夫の役割』が8ポイント増加し、『妻の役割』は5ポイント減少した。

男性も同様に、『夫の役割』が9ポイント増加し、『妻の役割』は10ポイント減少している。

図2-7 家庭における役割 (f) ごみ出しは(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



家庭における役割

(g) 日常の買い物は

【性別】

「夫婦同じ程度の役割」は男性の方が7ポイント多く、『妻の役割』は女性の方が11ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は南加賀（81.3%）で最も多く、8割を超えている。

男性では、『妻の役割』は能登北部（58.3%）で少なくなっている。

【年代別】

女性の場合、50代で『妻の役割』（80.6%）が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」（11.9%）は最も少ない。

男性の場合、20代で『妻の役割』（56.3%）が最も少なく、「夫婦同じ程度の役割」（27.1%）は最も多い。

【ライフステージ別】

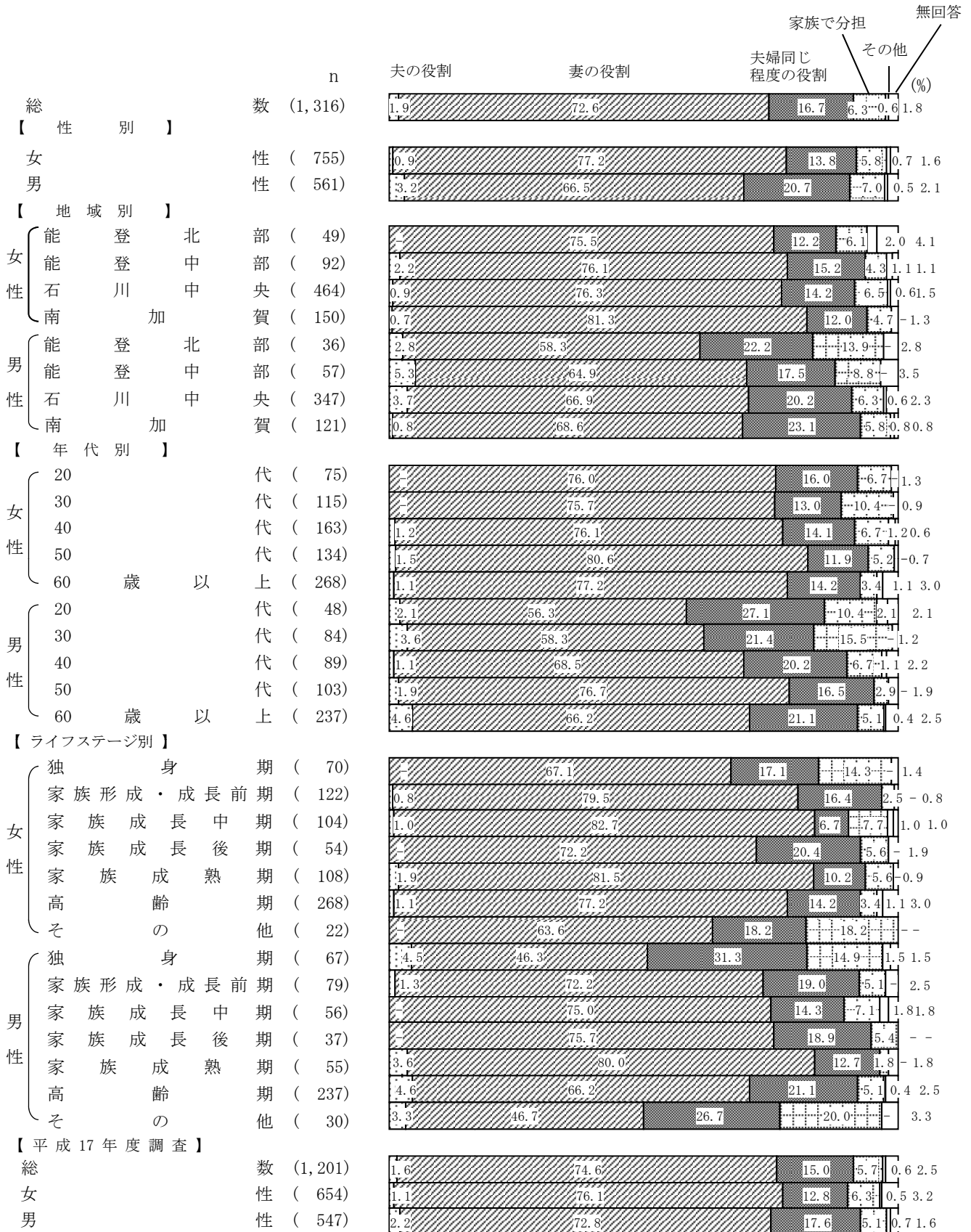
女性の場合、家族成長中期は「夫婦同じ程度の役割」（6.7%）が最も少なく、一方『妻の役割』（82.7%）は最も多くなっている。

男性の場合、「夫婦同じ程度の役割」は独身期（31.3%）が特に多く、3割を超えている。『妻の役割』は家族成熟期（80.0%）が多い。

【平成17年度調査との比較】

女性には変化は見られないが、男性では『妻の役割』が6ポイント減少している。

図2-8 家庭における役割 (g) 日常の買い物は(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



家庭における役割

(h) 高額商品の購入の決定は

【性別】

『夫の役割』は女性の方が4ポイント多く、『妻の役割』は男性の方が5ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、能登北部で他の地域に比べ「夫婦同じ程度の役割」（28.6%）が特に少なくなっている。

男性では、すべての地域で「夫婦同じ程度の役割」は4割台、『夫の役割』が3割台、『妻の役割』が1割台と同じ傾向になっている。

【年代別】

女性の場合、30代で『妻の役割』（5.2%）が最も少なく、一方で『夫の役割』（44.3%）が最も多い。

男性の場合は、『夫の役割』が40代（42.7%）50代（42.7%）が多い。

【ライフステージ別】

女性の場合、「夫婦同じ程度の役割」は家族成長後期（51.9%）で5割を超えている。『夫の役割』は家族成長中期（50.0%）で特に多くなっている。

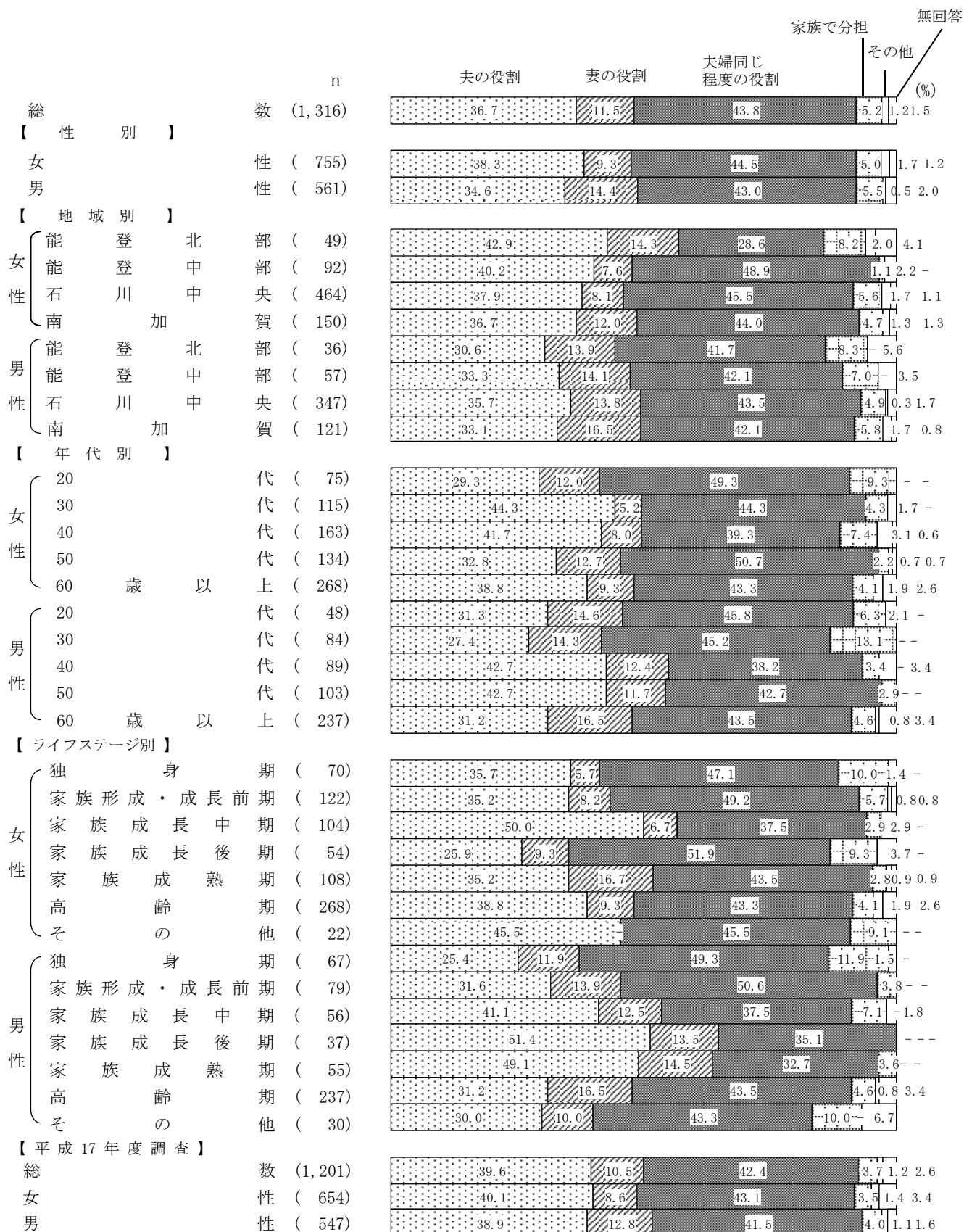
男性の場合、『夫の役割』は家族成長後期（51.4%）、家族成熟期（49.1%）で多くなっている。

【平成17年度調査との比較】

男女ともに大きな変化は見られない。

図2-9 家庭における役割 (h) 高額商品の購入の決定は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



家庭における役割

(i) 高齢者や病身者の介護や看護は

【性別】

『妻の役割』は女性の方が11ポイント多く、『夫婦同じ程度の役割』は男性の方が10ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、能登北部で他の地域に比べ「夫婦同じ程度の役割」（12.2%）が少なく、『妻の役割』（65.3%）が多くなっている。

男性の場合も、能登北部で「夫婦同じ程度の役割」（16.7%）が少なく、『妻の役割』（52.8%）が多くなっている。

【年代別】

女性の場合、『妻の役割』は20代（36.0%）が最も少ない。一方、20代は「夫婦同じ程度の役割」（29.3%）、「家族で分担」（29.3%）が他の年代と比べて多い。

男性の場合、「夫婦同じ程度の役割」は60歳以上（24.9%）で少なく、他の年代は4割前後である。

【ライフステージ別】

女性の場合、独身期では『妻の役割』（32.9%）、「夫婦同じ程度の役割」（31.4%）、「家族で分担」（32.9%）がそれぞれ3割台となっている。

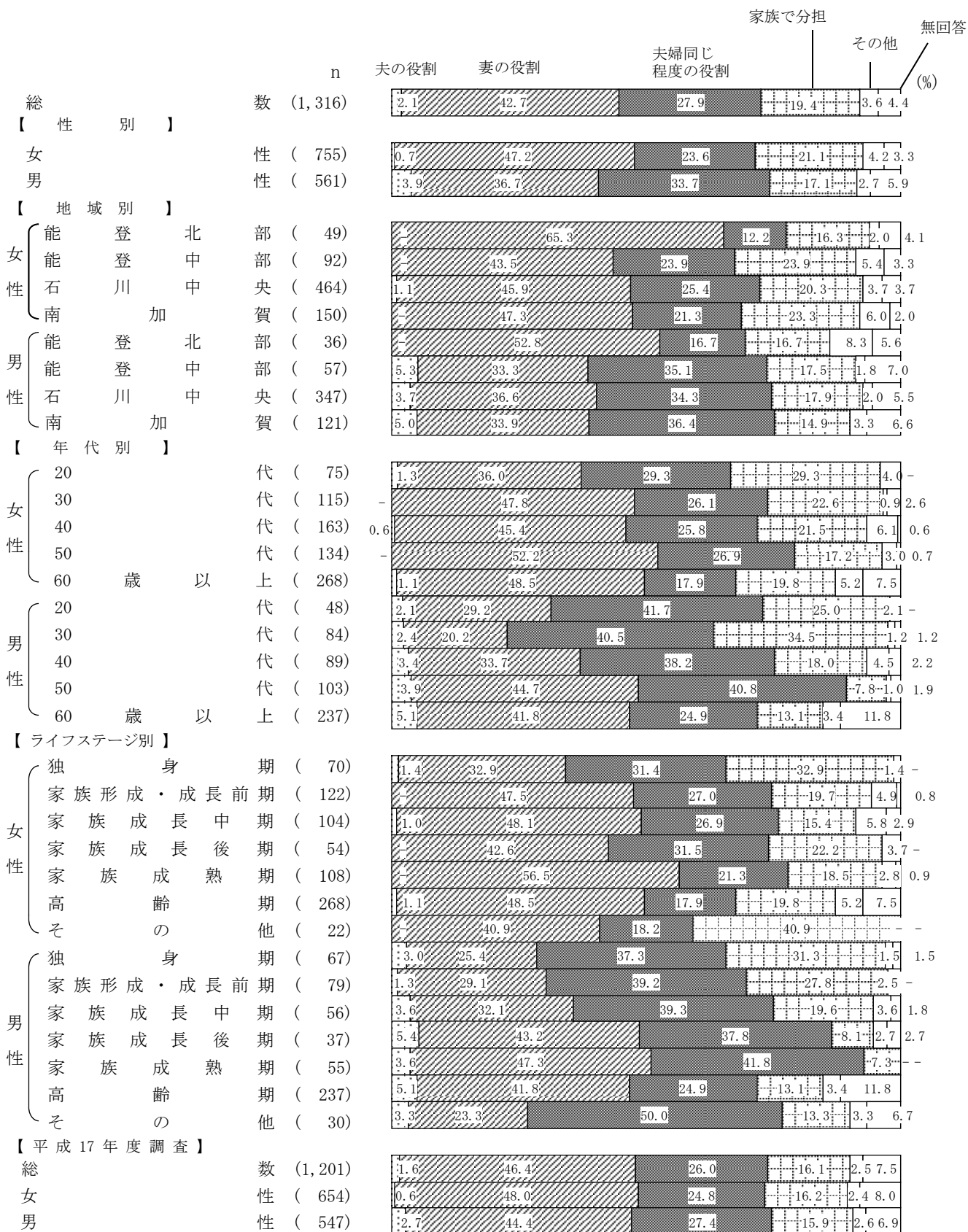
男性の場合、『妻の役割』は独身期（25.4%）、家族形成・成長前期（29.1%）で少なく、2割台となっている。

【平成17年度調査との比較】

女性には変化は見られないが、男性では『妻の役割』が8ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」が6ポイント増加している。

図2-10 家庭における役割 (i) 高齢者や病身者の介護や看護は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



家庭における役割

(j) 育児・しつけは

【性別】

『妻の役割』は女性の方が3ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、能登北部で他の地域に比べ『妻の役割』（36.7%）が少ない。

男性の場合は、能登北部で「夫婦同じ程度の役割」（30.6%）が少なく、『妻の役割』（50.0%）が多くなっている。

【年代別】

女性の場合、『妻の役割』は20代（34.7%）が最も少ない。一方、20代は「夫婦同じ程度の役割」（46.7%）、「家族で分担」（17.3%）が他の年代と比べて多い。

男性の場合、「夫婦同じ程度の役割」は60歳以上（28.3%）で少なく、40代（64.0%）が多い。

【ライフステージ別】

女性の場合、『妻の役割』は独身期（28.6%）で少なく、家族成熟期（55.6%）が多い。一方「夫婦同じ程度の役割」は独身期（54.3%）で多く、家族成熟期（32.4%）で少ない。

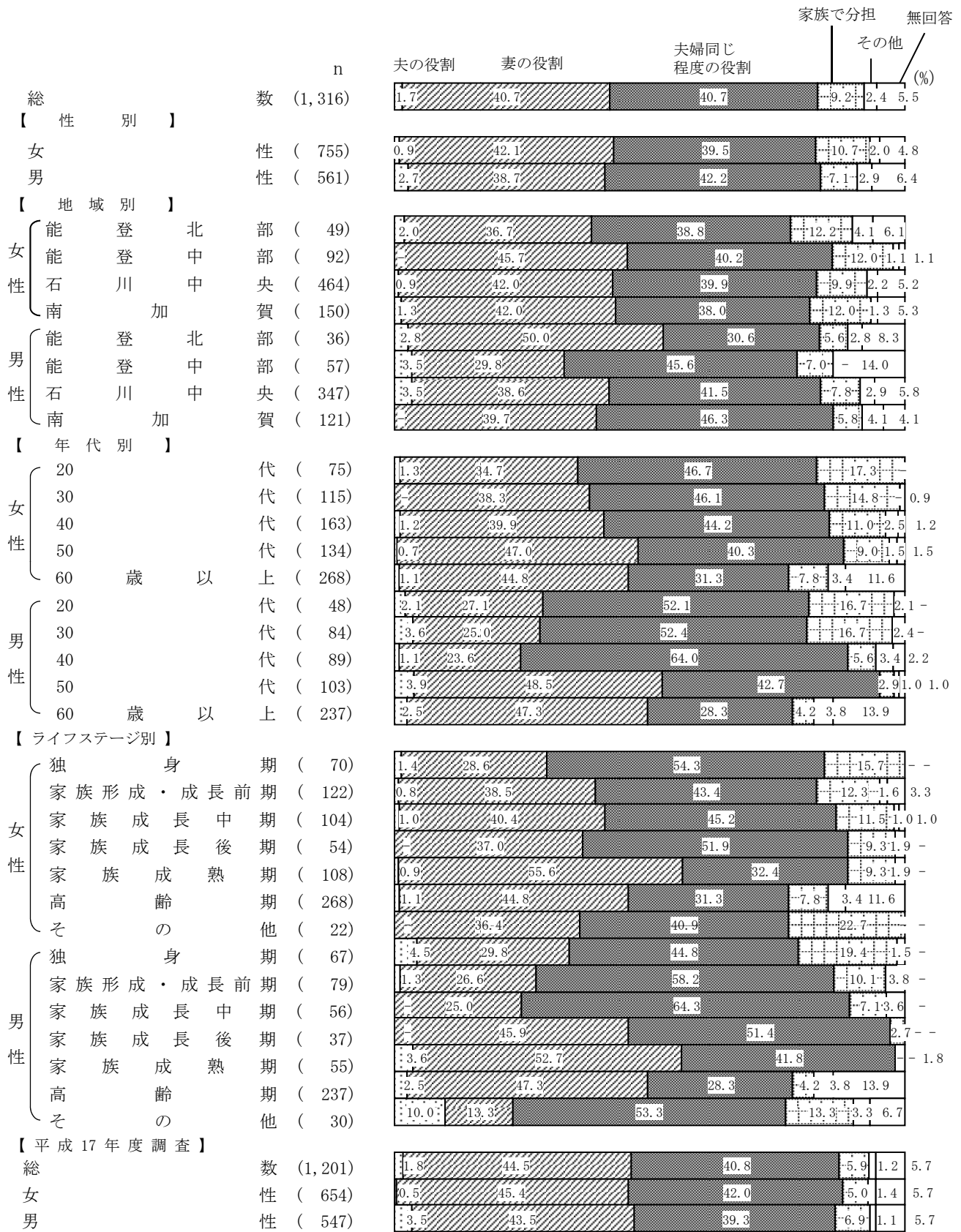
男性では、『妻の役割』は家族成熟期（52.7%）が多く5割を超えており、家族成長中期（25.0%）、家族形成・成長前期（26.6%）で少ない。

【平成17年度調査との比較】

女性では「家族で分担」が6ポイント増加し、男性では『妻の役割』が5ポイント減少している。

図2-11 家庭における役割 (j) 育児・しつけは

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



家庭における役割

(k) P T A や地域活動への参加は

【性別】

『夫の役割』は男性の方が9ポイント多く、『妻の役割』は女性の方が7ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は南加賀（29.3%）、能登中部（30.4%）で少ない。

男性の場合は、南加賀で『夫の役割』（25.6%）が他の地域に比べて最も多く、『妻の役割』（15.7%）を超えている。

【年代別】

女性の場合、『妻の役割』は20代（29.3%）、30代（27.8%）が少なく、その他の世代は4割を超えている。

男性の場合も、『妻の役割』は20代（25.0%）、30代（19.0%）が少なく、その他の世代は3割台となっている。

【ライフステージ別】

女性の場合、独身期で「夫婦同じ程度の役割」（52.9%）が多く、『妻の役割』（25.7%）が少なくなっている。

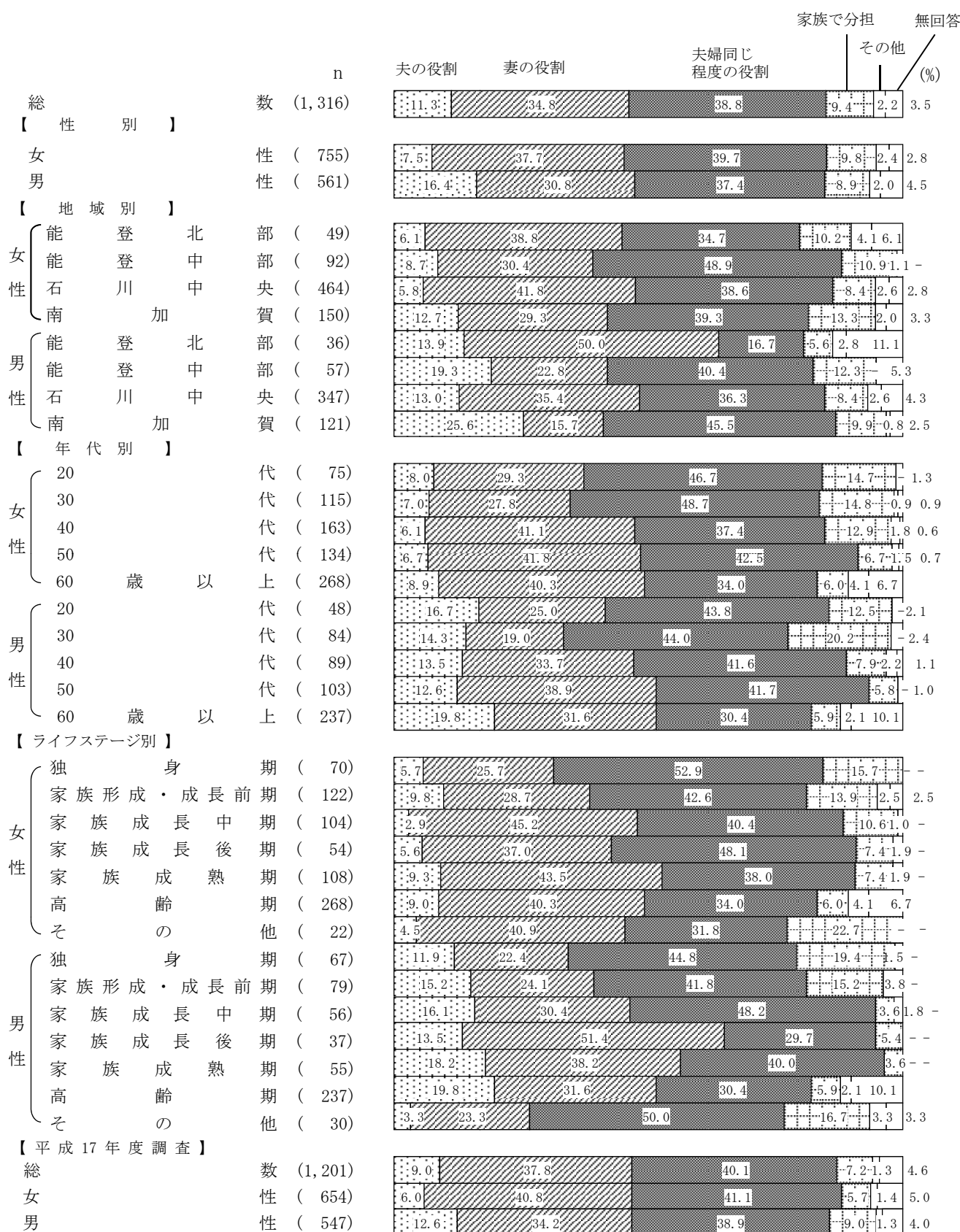
男性の場合、家族成長後期で『妻の役割』（51.4%）が特に多く5割を超えており、「夫婦同じ程度の役割」（29.7%）が少ない。

【平成17年度調査との比較】

男女ともに大きな変化は見られない。

図2-12 家庭における役割 (k) PTAや地域活動への参加は

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



2 「男は仕事、女は家庭」という考え方

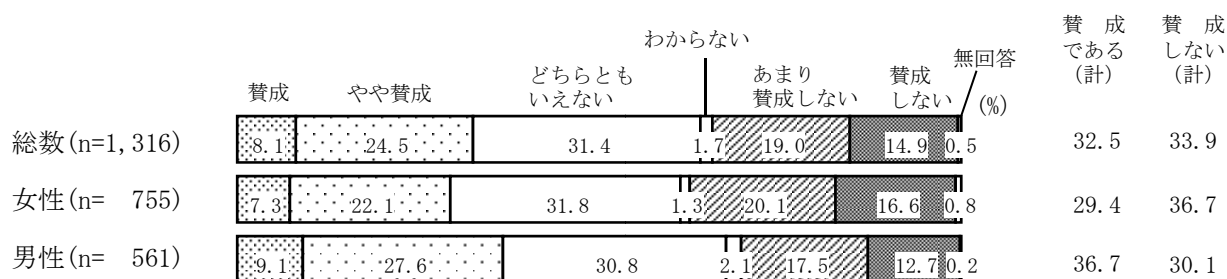
問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(○は1つだけ)

全体で見ると、「賛成」(8.1%)、「やや賛成」(24.5%)で、合わせて『賛成である(計)』は32.5%である。一方、「あまり賛成しない」(19.0%)、「賛成しない」(14.9%)で、『賛成しない(計)』は合わせて33.9%となっている。「どちらともいえない」と答えた中間派は31.4%と意見は分かれている。

女性では、『賛成である(計)』は29.4%である。一方、『賛成しない(計)』は36.7%となり、反対派が賛成派を7ポイント上回っている。

男性では、『賛成である(計)』は36.7%である。一方『賛成しない(計)』は30.1%と、賛成派が反対派を7ポイント上回っている。

図3-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方 (性別)



「男は仕事、女は家庭」という考え方

【性別】

『賛成である（計）』は男性の方が7ポイント多く、『賛成しない（計）』は女性の方が7ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、能登北部で『賛成である（計）』（18.4%）を『賛成しない（計）』（51.0%）が大きく上回っている。

男性では、能登中部のみで『賛成しない（計）』（42.1%）が『賛成である（計）』（24.6%）を上回っている。

【年代別】

女性では、60歳以上のみ『賛成である（計）』（37.7%）が『賛成しない（計）』（26.5%）を上回っている。その他の年代では、『賛成しない（計）』が4割台、『賛成である（計）』が2割台となっている。

男性では、30代のみが『賛成しない（計）』（41.7%）が『賛成である（計）』（17.9%）を上回っている。20代では、『賛成である（計）』は41.7%である一方、『賛成しない（計）』は20.8%となり、賛成派が反対派を20ポイント以上上回っている。

【本人の職業別】

女性の場合、勤め人で『賛成である（計）』（22.6%）が特に少なく、『賛成しない（計）』（47.3%）を25ポイント下回っている。逆に、専業主婦では『賛成である（計）』（42.5%）が多く、『賛成しない（計）』（20.2%）が少なくなっている。

男性の場合、自営業・家族従業者で『賛成である（計）』（38.1%）と『賛成しない（計）』（22.7%）の差が最も大きく、『賛成である（計）』が15ポイント上回っている。

【共働きの有無別】

女性では、『賛成である（計）』は、共働きでない（40.0%）方が共働き（20.5%）より20ポイント多くなっている。『賛成しない（計）』は共働き（46.6%）の方が共働きでない（26.2%）より20ポイント多い。

男性では、『賛成である（計）』は、共働きでない（40.5%）の方が共働き（34.7%）より6ポイント多く、『賛成しない（計）』は共働き（33.7%）の方が共働きでない（27.7%）より6ポイント多い。

【平成17年度調査との比較】

総数では、『賛成である（計）』が1.6%増加し、『反対である（計）』が0.5%減少しているものの、大きな変化はみられない。

性別で見ると、女性で『賛成である（計）』が5ポイント増加している。

図3-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方（性別、地域別、年代別、本人の職業別、家族の共働き別、平成17年度調査結果）

	n	わからない					無回答 (%)	賛成である(計)	賛成しない(計)		
		賛成	やや賛成	どちらともいえない	あまり賛成しない	賛成しない					
総数	(1,316)	8.1	24.5	31.4	1.7	19.0	14.9	0.5	32.5	33.9	
【性別】											
女性	(755)	7.3	22.1	31.8	1.3	20.1	16.6	0.8	29.4	36.7	
男性	(561)	9.1	27.6	30.8	2.1	17.5	12.7	0.2	36.7	30.1	
【地域別】											
女性	能登北部	(49)	4.1	14.3	24.5	6.1	24.5	26.5	-	18.4	51.0
	能登中部	(92)	4.3	17.4	39.1	1.1	25.0	13.0	-	21.7	38.0
	石川中央	(464)	8.2	23.7	31.3	1.3	20.0	14.7	0.9	31.9	34.7
	南加賀	(150)	7.3	22.7	31.3	-	16.0	21.3	1.3	30.0	37.3
男性	能登北部	(36)	13.9	19.4	36.1	2.8	19.4	5.6	2.8	33.3	25.0
	能登中部	(57)	7.0	17.5	31.6	1.8	19.3	22.8	-	24.6	42.1
	石川中央	(347)	10.1	30.3	29.1	2.0	17.0	11.5	-	40.4	28.5
南加賀	(121)	5.8	27.3	33.9	2.5	17.4	13.2	-	33.1	30.6	
【年代別】											
女性	20代	(75)	2.7	22.7	33.3	1.3	20.0	20.0	-	25.3	40.0
	30代	(115)	4.3	20.0	33.9	-	27.0	14.8	-	24.4	41.7
	40代	(163)	4.9	22.1	24.5	2.5	25.2	20.2	0.6	27.0	45.4
	50代	(134)	6.0	16.4	35.8	0.7	16.4	23.9	0.7	22.4	40.3
	60歳以上	(268)	11.9	25.7	32.8	1.5	16.0	10.4	1.5	37.7	26.5
男性	20代	(48)	4.2	37.5	33.3	4.2	8.3	12.5	-	41.7	20.8
	30代	(84)	2.4	15.5	38.1	2.4	27.4	14.3	-	17.9	41.7
	40代	(89)	3.4	30.3	36.0	3.4	11.2	15.7	-	33.7	27.0
	50代	(103)	9.7	33.0	24.3	2.9	18.4	11.7	-	42.7	30.1
	60歳以上	(237)	14.3	26.6	28.7	0.8	17.7	11.4	0.4	40.9	29.1
【本人の職業別】											
女性	勤め人	(368)	4.3	18.2	28.5	1.1	24.7	22.6	0.5	22.6	47.3
	自営業・家族従業	(60)	5.0	23.3	41.7	-	20.0	10.0	-	28.3	30.0
	無職・学生	(111)	11.7	18.0	28.8	2.7	19.8	15.3	3.6	29.7	35.1
	専業主婦	(193)	11.4	31.1	35.8	1.6	12.4	7.8	-	42.5	20.2
男性	勤め人	(306)	6.5	30.1	29.7	2.0	19.0	12.7	-	36.6	31.7
	自営業・家族従業	(97)	11.3	26.8	36.1	3.1	15.5	7.2	-	38.1	22.7
	無職・学生	(142)	12.7	24.6	28.9	1.4	16.2	15.5	0.7	37.3	31.7
【共働きの有無別】											
女性	共働き	(268)	3.7	16.8	30.6	1.1	26.5	20.1	1.1	20.5	46.6
	共働きでない	(195)	9.2	30.8	31.8	1.5	15.4	10.8	0.5	40.0	26.2
男性	共働き	(199)	6.0	28.6	29.1	2.5	17.6	16.1	-	34.7	33.7
	共働きでない	(173)	12.1	28.3	29.5	2.3	15.0	12.7	-	40.5	27.7
【平成17年度調査】											
総数	(1,201)	9.4	21.5	32.6	2.2	19.9	14.5	-	30.9	34.4	
女性	(654)	6.7	17.9	33.8	2.6	20.8	18.2	-	24.6	39.0	
男性	(547)	12.6	25.8	31.1	1.6	18.8	10.1	-	38.4	28.9	

【経年比較】

過去の調査結果と比較すると、女性『賛成である（計）』は、昭和55年、昭和60年、平成2年、平成7年、平成12年、平成17年度までは減少してきたが、今回調査（29.4%）では5ポイント増加に転じている。「賛成」の増加は0.6ポイントで「やや賛成」の増加は4.2ポイントとなっている。また、これまで増え続けていた「どちらともいえない」が2.0ポイント減少し、2%台を保っていた「わからない」が1.3ポイント減少している。

男性の場合は、『賛成である（計）』は平成2年調査から51.4%（平成2年）、41.2%（平成7年）と減少し、平成12年（42.0%）にわずかに増加したが、平成17年（38.4%）、今回調査（36.7%）で再び減少している。『賛成しない（計）』は、平成12年から19.5%（平成12年）、28.9%（平成17年）、30.1%（今回調査）と増加している。

【平成21年度内閣府調査との比較（参考）】

内閣府が平成21年10月に実施した「男女共同参画に関する世論調査」における「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について賛否をたずねた調査結果を参考として掲載する。

本県調査における「男は仕事、女は家庭」という考え方について賛否をたずねた結果とは、賛成派が女性より男性に多い点や、女性では反対派の比率が賛成派の比率を上回る点が共通している。

一方、本県調査では、男性では賛成派の比率が反対派の比率を上回っているが、内閣府調査では、男性も、反対派の比率が賛成派の比率を上回っている点が相違している。

図3-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方（経年比較）

	n	わからない					無回答 (%)	賛成である (計)	賛成しない (計)	
		賛成	やや賛成	どちらともいえない	あまり賛成しない	賛成しない				
女性	今回調査 (755)	7.3	22.1	31.8	1.3	20.1	16.6	0.8	29.4	36.7
	平成17年度調査 (654)	6.7	17.9	33.8	2.6	20.8	18.2		24.6	39.0
	平成12年度調査 (696)	9.3	21.6	32.0	2.4	18.1	16.5		30.9	34.6
	平成7年度調査 (764)	12.6	22.3	24.7	2.9	20.0	17.5		34.8	37.6
	平成2年度調査 (1,106)	12.5	26.4	23.1	2.5	19.8	15.6		38.9	35.4
	昭和60年度調査 (855)	15.8	33.7	17.5	1.8	21.8	9.5		49.5	31.3
昭和55年度調査 (884)		27.7	26.7	16.3	2.7	20.2	6.3		54.4	26.5
男性	今回調査 (561)	9.1	27.6	30.8	2.1	17.5	12.7	0.2	36.7	30.1
	平成17年度調査 (547)	12.6	25.8	31.1	1.6	18.8	10.1		38.4	28.9
	平成12年度調査 (609)	13.8	28.2	36.6	1.8	12.0	7.6		42.0	19.5
	平成7年度調査 (553)	16.5	24.8	22.8	2.9	17.4	15.7		41.2	33.1
	平成2年度調査 (389)	24.4	27.0	16.7	1.3	17.2	13.4		51.4	30.6

図3-4 参考：「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（平成21年度内閣府調査）

	n	わからない				賛成 (計)	反対 (計)	
		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対			
総数 (3,240)		10.6	30.7	3.6	31.3	23.8	41.3	55.1
女性 (1,730)		9.5	27.8	4.0	32.0	26.6	37.3	58.6
男性 (1,510)		11.9	34.0	3.1	30.4	20.7	45.9	51.1

【平成17年度調査との年代別比較】

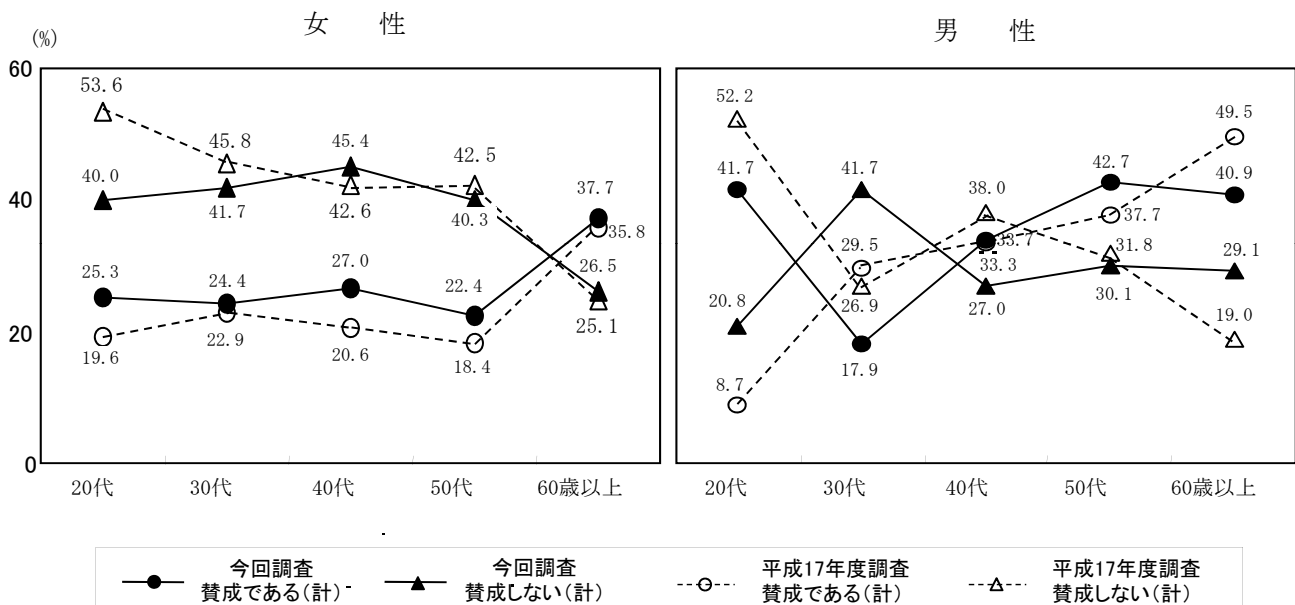
平成17年度の調査結果と年代別に比較すると、女性では、20代では『賛成しない（計）』が14ポイント減少し、『賛成である（計）』が6ポイント増加している。『賛成である（計）』の増加が最も大きいのは40代で、6ポイント増加している。

男性の場合は、20代で『賛成である（計）』は33ポイント増加、『賛成しない（計）』は31ポイント減少し、比率が大きく変化している。40代では、『賛成である（計）』はほぼ変わらず『賛成しない（計）』が11ポイント減少しており、50代では、『賛成である（計）』が5ポイント増加している。

一方、30代、60歳以上では、それぞれ『賛成である（計）』が減少し、『賛成しない（計）』は増加しているなど、年代によって傾向に違いが見られる。

全体で見ると、男女ともに、特に20代で比率の変化が大きくなっている。

図3-5 「男は仕事、女は家庭」という考え方（平成17年度調査との年代別比較）



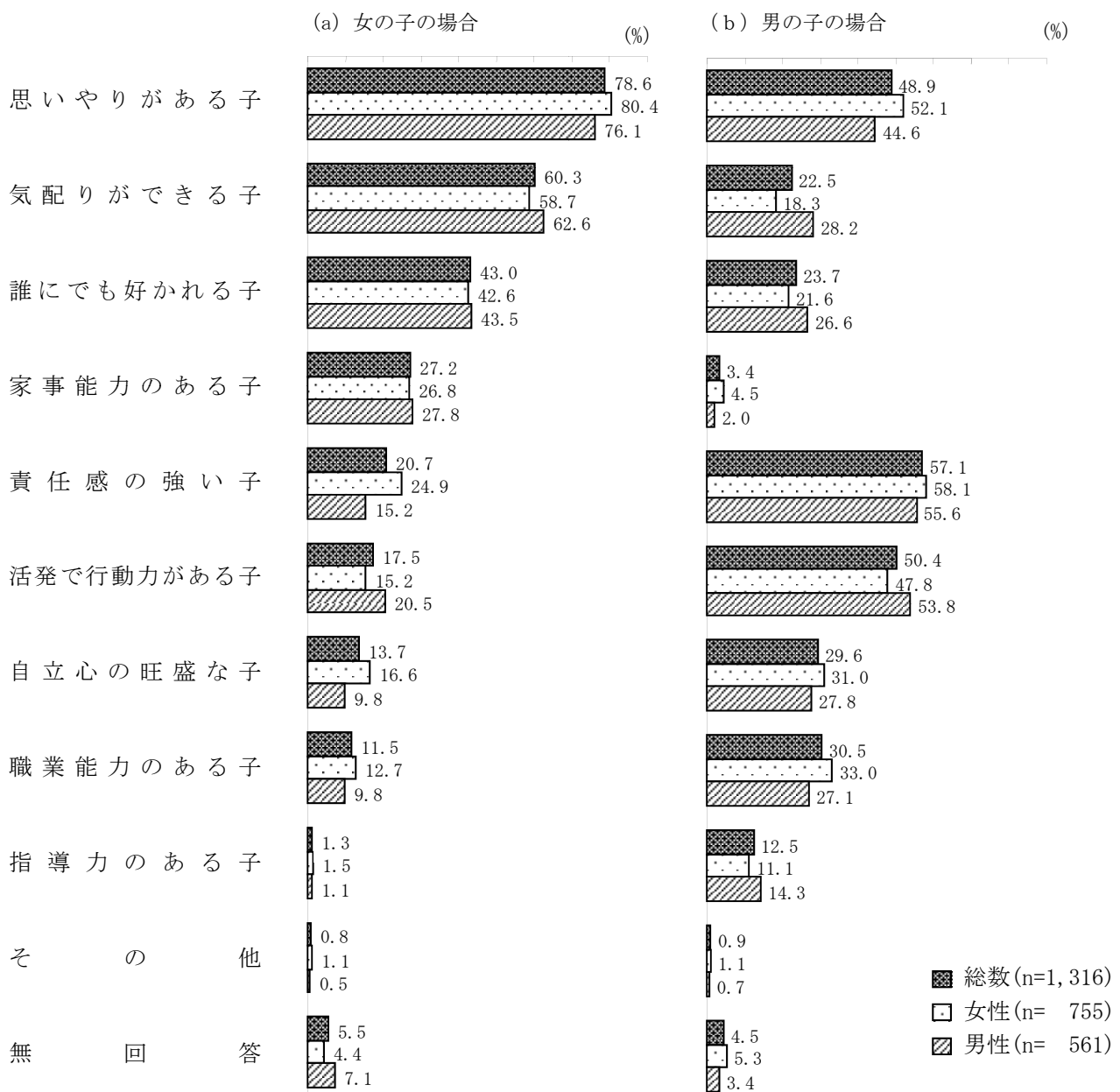
3 子どもの教育方針

問4 お子さんをどのように育てたい（育ってほしかった）と思いますか。お子さんがいらっしゃらない方も、いたと仮定してお答えください。（女の子の場合、男の子の場合、○はそれぞれ3つまで）

男の子の場合と女の子の場合とを比較すると、女の子に対しては、男女とも「思いやりのある子」が最も多く、7割を超える人があげている。次いで、男女とも「気配りができる子」を5割以上、「誰にでも好かれる子」を4割以上の人があげている。

男の子に対しては、男女とも「責任感の強い子」が5割強で最も多くなっている。以下、女性では「思いやりのある子」を5割を超える人があげている。男の子に対してと、女の子に対してでは、育てたい（育ってほしかった）気質に違いが見られる。

図4-1 子どもの教育方針 項目別一覧（性別）



子どもの教育方針

(a) 女の子の場合

【性別】

男女とも、共通して「思いやりのある子」（女性80.4%、男性76.1%）が最も多く、ほぼ4人に3人があげている。次いで「気配りができる子」（女性58.7%、男性62.6%）、「誰にでも好かれる子」（女性42.6%、男性43.5%）の順となっている。

【地域別】

女性では、「思いやりのある子」が石川中央（84.7%）で8割を超えている。「気配りができる子」は能登北部（65.3%）で多い。「責任感の強い子」も能登北部（28.6%）で多くなっている。

男性の場合は、「誰にでも好かれる子」は能登中部（52.6%）でやや多い。また、能登中部では「活発で行動力のある子」（29.8%）も多い。

【年代別】

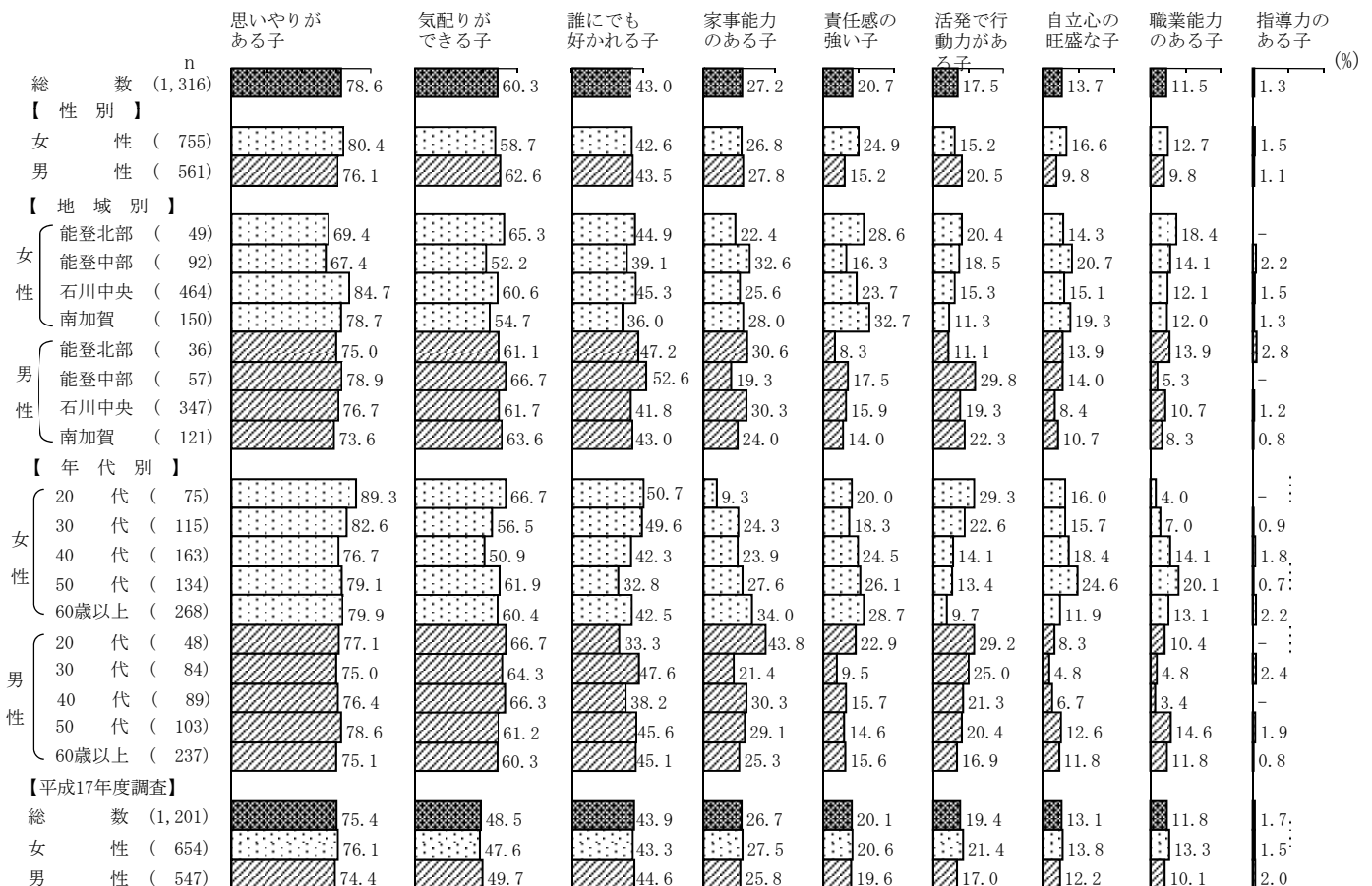
女性の場合、「思いやりのある子」が20代（89.3%）と30代（82.6%）で8割台と多い。「家事能力のある子」は20代（9.3%）で少なく、60歳以上（34.0%）で多くなっている。「活発で行動力のある子」は年代が上がるほど少なくなっている。

男性の場合、「家事能力のある子」は20代（43.8%）で特に多い。

【平成17年度調査との比較】

前回同様、「思いやりのある子」が最も多く、「気配りができる子」「誰にでも好かれる子」の順となっており、「気配りができる子」が前回と比べて12ポイント増加している。

図4-2 子どもの教育方針（a）女の子（性別、地域別、年代別、平成17年度調査結果）



子どもの教育方針

(b) 男の子の場合

【性別】

男女とも、「責任感の強い子」（女性58.1%、男性55.6%）が5割台で最も多い。以下、女性では「思いやりがある子」（52.1%）、「活発で行動力がある子」（47.8%）の順となっている。

男性では、「活発で行動力がある子」（53.8%）、思いやりがある子（44.6%）の順となっている。

【地域別】

女性では、「思いやりがある子」は石川中央（57.1%）が最も多い。また、能登中部では「活発で行動力のある子」（57.6%）が最も多くなっている。

男性では、「職業能力のある子」が、ほかの地域では2割にとどまっているのに対し、能登北部（44.4%）では4割台と多い。また、能登北部は「誰にでも好かれる子」（38.9%）、「自立心の旺盛な子」（33.3%）も多くなっている。

【年代別】

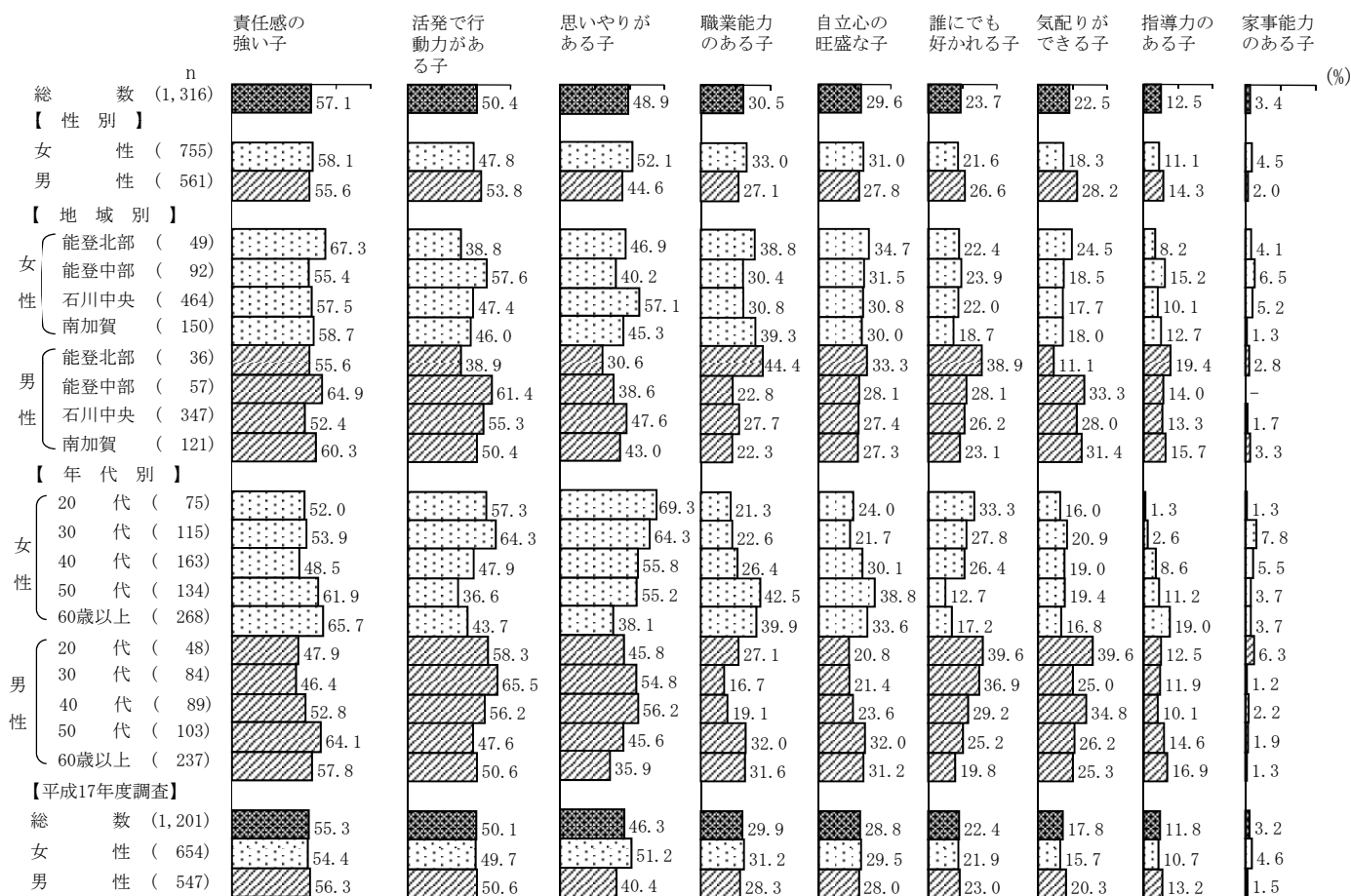
女性の場合、「思いやりのある子」が20代（69.3%）と30代（64.3%）で、「活発で行動力がある子」は30代（64.3%）で6割台と多い。「職業能力のある子」は50代（42.5%）、60歳以上（39.9%）で多くなっている。

男性の場合、「責任感の強い子」は50代（64.1%）、「活発で行動力がある子」は30代（65.5%）がほかの年代と比べて多くなっている。

【平成17年度調査との比較】

男女ともに、あまり変化は見られない。

図4-3 子どもの教育方針 (b) 男の子 (性別、地域別、年代別、平成17年度調査結果)



4 子どもの進学

問5 お子さんにはどこまでの教育を受けてほしいですか。女の子の場合、男の子の場合それぞれ○を1つだけ選んでください。

全体では、女の子の場合、最も多いのは「本人の意思に任せる」で、以下、「大学」「短期大学・専門学校」の順となっている。男の子の場合、「大学」が最も多いが、続く「本人の意思に任せる」も3割弱となっている。男の子で半数以上を占める「大学」の比率は、女の子では20ポイント以上低い。性別では、男の子、女の子ともに大きな差は見られない。

図5-1 子どもの進学 項目別一覧（性別）



子どもの進学

(a) 女の子の場合

【性別】

女性では、「本人の意思に任せる」が35.1%と3人に1人が回答している。以下「大学」（30.5%）、「短期大学・専門学校」（20.3%）の順となっている。

男性では、「大学」が最も多く30.5%となっている。以下、「本人の意思に任せる」(27.1%)、「短期大学・専門学校」(22.1%)の順となっている。

【地域別】

女性では、「本人の意思に任せる」は南加賀（38.0%）、石川中央（36.4%）で多い。能登中部では、「大学」（30.4%）が「本人の意思に任せる」（28.3%）を上回っている。

男性の場合は、能登北部では「短期大学・専門学校」(41.7%)が最も多い。また、能登北部では「大学」（8.3%）が少なく、ほかの地域では3割を超えているのに対し1割未満である。

【年代別】

女性の場合、「本人の意思に任せる」は20代（41.3%）と50代（40.3%）で4割を超えている。

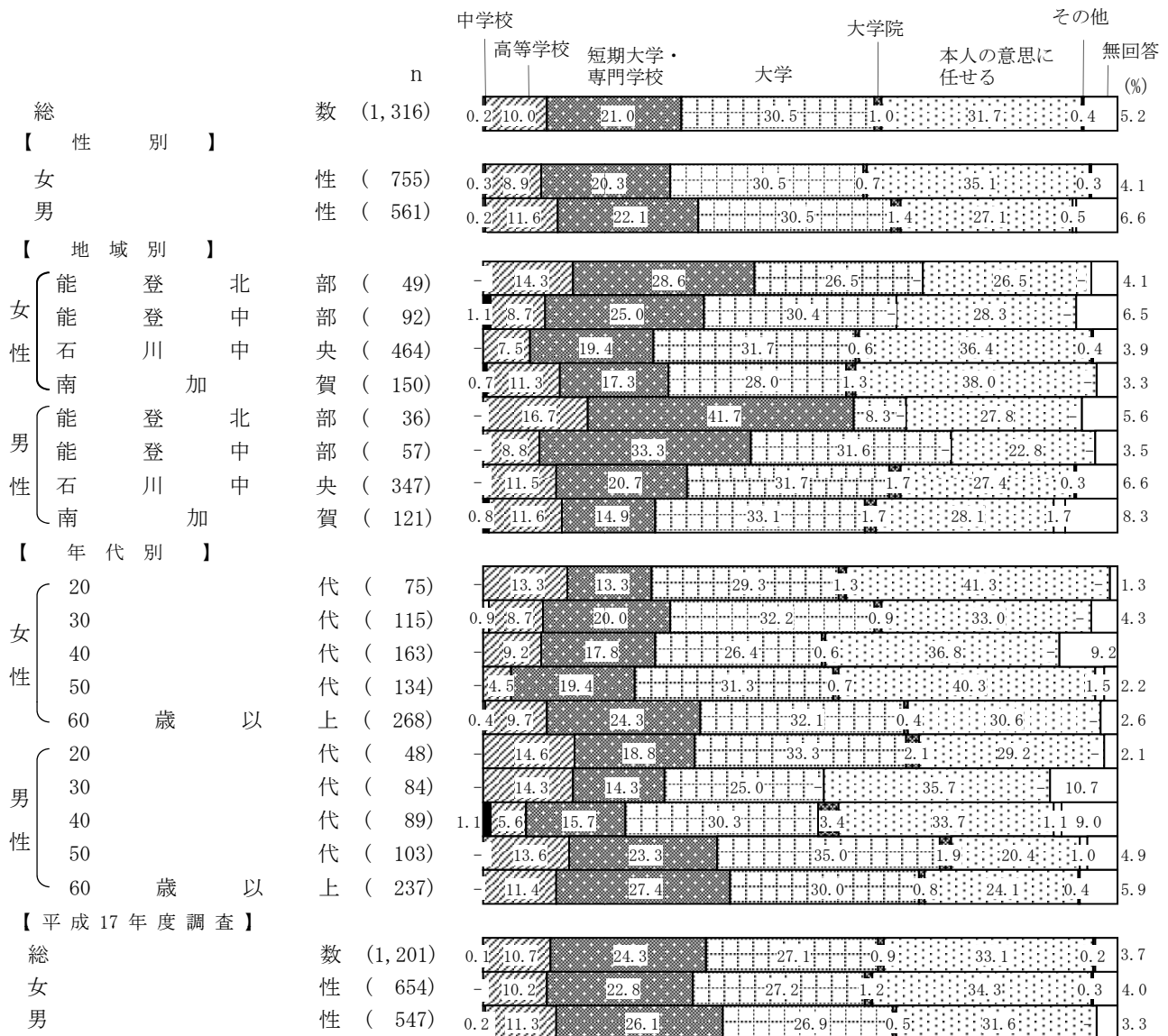
男性の場合、「短期大学・専門学校」は50代（23.3%）と60歳以上（27.4%）で多い。

【平成17年度調査との比較】

男女ともに大きな変化は見られない。

⋮

図5-2 子どもの進学（a）女の子（性別、地域別、年代別、平成17年度調査結果）



子どもの進学 (b) 男の子の場合

【性別】

女性の場合、「大学」が51.3%と半数を占め最も多い。次いで「本人の意思に任せる」が29.8%で、この2つを合わせると8割以上を占める。以下、「大学院」「高等学校」「短期大学・専門学校」等は1割未満となっている。

男性の場合も、「大学」(50.6%)が最も多く半数を超えている。次いで「本人の意思に任せる」が26.4%で、この2つを合わせるとほぼ8割を占める。以下、「大学院」「高等学校」「短期大学・専門学校」等は1割未満となっている。

【地域別】

女性では、「大学」が能登北部(55.1%)で多く、「本人の意思に任せる」は南加賀(31.3%)、石川中央(30.8%)で多い。

男性の場合は、能登北部では「短期大学・専門学校」(25.0%)が他の地域と比べて多く、「大学」(30.6%)が少ない。

【年代別】

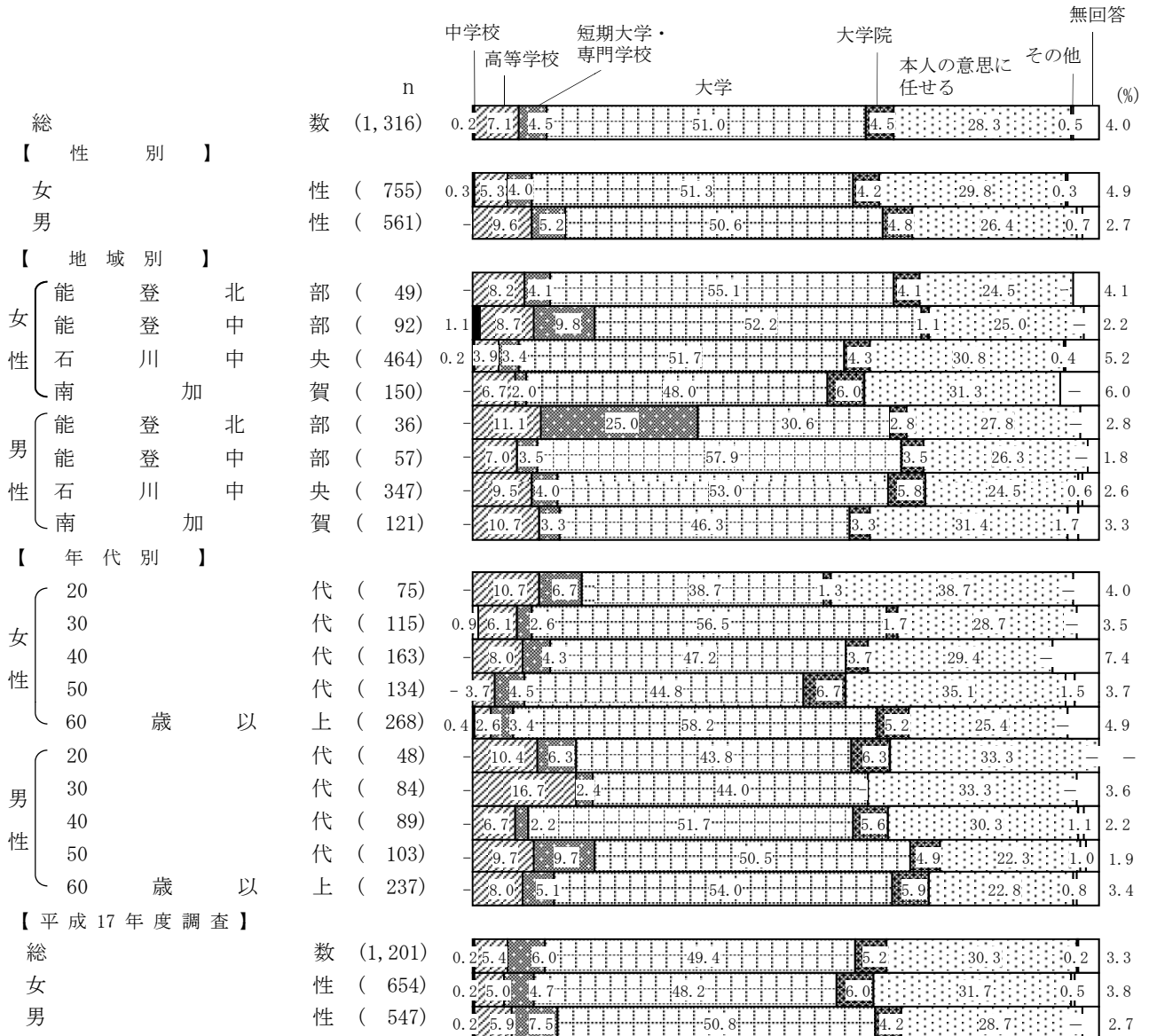
女性の場合、「大学」が30代(56.5%)と60歳以上(58.2%)で5割を超えているが、20代は38.7%と他の年代と比べ低くなっている。

男性の場合、「本人の意思に任せる」は50代(22.3%)と60歳以上(22.8%)で少なく、他の年代は3割を超えている。

【平成17年度調査との比較】

男女ともに、あまり変化は見られない。

図5-3 子どもの進学（b）男の子（性別、地域別、年代別、平成17年度調査結果）



5 自分の介護を誰に望むか

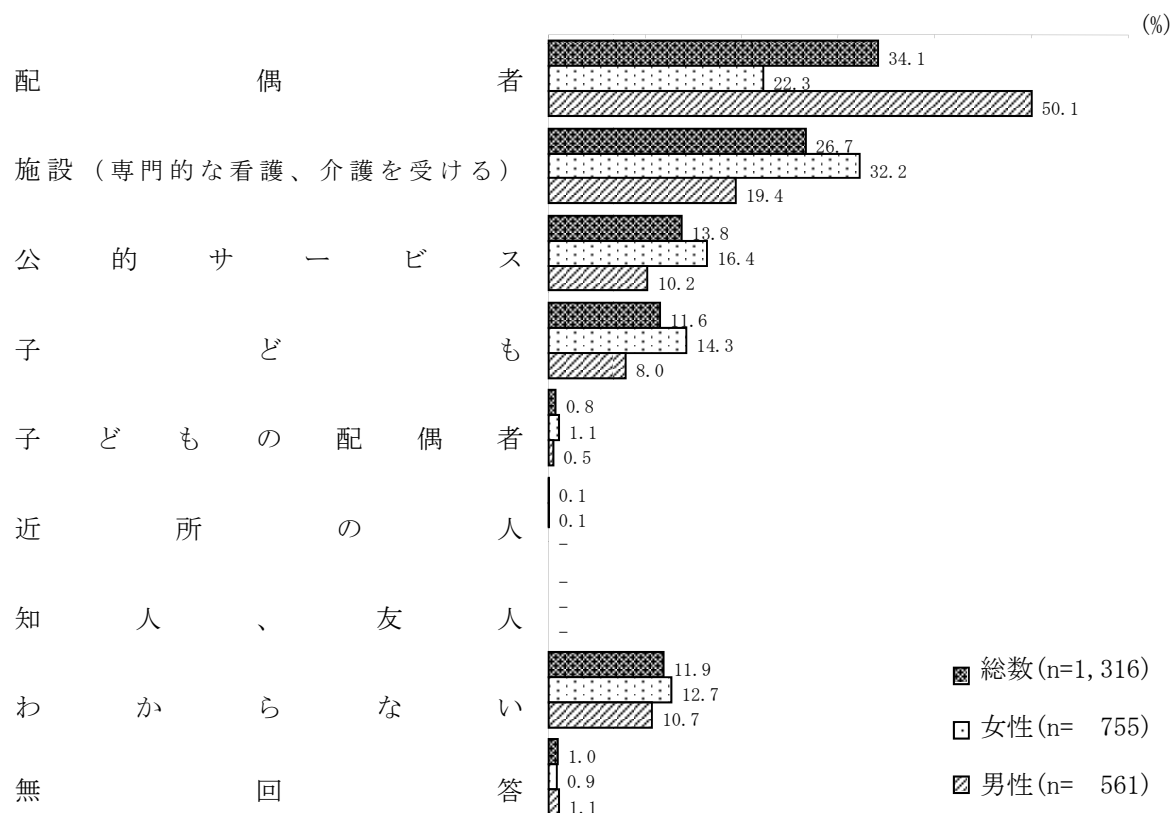
問6 将来あなたが病気や介護の必要な状態になった時、世話や介護は主にだれにしてほしいですか。次の中から1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

全体では「配偶者」が34.1%と最も多く、次いで「施設（専門的な看護、介護を受ける）」（26.7%）、
「公的サービス」（13.8%）、「子ども」（11.6%）となっている。

女性では「施設」が32.2%と最も多く、次いで「配偶者」（22.3%）、「公的サービス」（16.4%）、
「子ども」（14.3%）となっている。

男性では、「配偶者」が50.1%と半数を超え、女性と比べ特に多くなっている。以下、「施設」（19.4%）、
「公的サービス」（10.2%）、「子ども」（8.0%）となっている。

図6-1 自分の介護を誰に望むか 項目別一覧（性別）



自分の介護を誰に望むか

【性別】

「配偶者」は男性の方が28ポイント多く、「施設」は13ポイント、「公的サービス」は6ポイント、「子ども」は6ポイント女性の方が多くなっている。

【地域別】

女性の場合、「公的サービス」が能登中部（19.6%）で多い分、「施設」が28.3%と少なくなっている。

男性の場合、「配偶者」が能登北部（55.6%）、能登中部（57.9%）で5割を上回っており、この地域では「公的サービス」が他の地域に比べ少なくなっている。

【年代別】

女性の場合、20代で他の年代に比べ「公的サービス」（5.3%）が少なく、「施設」（30.7%）、「配偶者」（29.3%）が多い。60歳以上では他の年代に比べ「配偶者」（17.9%）が少なく、「施設」（34.7%）、「公的サービス」（22.4%）が多くなっている。

男性の場合、20代で他の年代に比べ「公的サービス」（2.1%）が少なく、「施設」（25.0%）や「子ども」（18.8%）が多くなっている。「配偶者」は男性40代以上で5割前後になっている。

【未既婚別】

女性では、「施設」は離死別（42.5%）、未婚者（39.2%）が多い。

男性では、有配偶者で「配偶者」が6割近くと特に多くなっている。

【平成17年度調査との比較】

「配偶者」の割合が全体で5ポイント減少し、特に男性で7ポイント減少している。

図6-2 自分の介護を誰に望むか（性別、地域別、年代別、未既婚別、平成17年度調査結果）

